

町田市街づくりアドバイザー登録者名簿

登録番号 (26)

個人 ・ 法人

ふりがな ちゅうじょう りゅういち
氏 名 中條 隆一

登録年月日 2007年6月21日

対応可能な分野

- 都市計画一般 都市再開発等 建築設計
- その他(緑、自然環境、景観、防災、福祉、スポーツ)

アドバイザー登録後の街づくりの実績 ※登録更新時に記載

- ・ 2010年3月から1年間、JICA派遣でタイへ行き、都市計画分野のボランティア活動。
- ・ 帰国後、都市計画などのコンサルタント会社に勤務。
- ・ 2020年11月から1年間、「パークPFI」と指定管理制度のもと、多摩市立総合公園で施設の整備、運営に取り組む事業者を選ぶ選定委員会の委員を務める。

資 格

技術士(建設部門:都市及び地方計画)

【最近10年間の主な活動内容】(業績または活動内容)

長年、自然・歴史環境保全、景観形成、にぎわい創出などをテーマにした都市やリゾート整備の計画づくりに就く中で、最近10年間の活動内容を述べると、以下のとおり。

●プランナーとして

98年以降は福祉関連が増え、まず「車椅子による観光ガイドマップCD」を作った。高齢者福祉計画に当たるかたわら、交通弱者の足の確保と負担軽減を考慮した「コミュニティバスの導入検討」を行う。こうした仕事を通じ、コンパクトでバリアフリーな都市構造の必要性への認識を高めた。また、02年より「住民参加(ワークショップ)で行う農村公園づくり」に従事し、昨年から今年にかけては、「海拔ゼロメートル地帯の洪水ハザードマップ」を作った。

●ライターとして

02年よりアマチュア野球を素材にした寄稿を始め、04～06年にコラムが雑誌で掲載された。その一つが「河川敷グラウンドの危機」である。これは、環境重視で淀川河川敷からグラウンドを排除する方針のもと、活動空間を失う危機に立つ少年チームの苦労を描く。そして、人口稠密地域におけるスポーツの場確保の道を、都市計画家の視点でまとめた。

枠内に記入して下さい。別紙は無効といたします。

【自己PR】

コンサルタントだから、有識者や住民の意見をふまえる計画づくりは、日常茶飯にこなしてきた。したがって、街づくり会議の際、合理的な議事運営や調整に手慣れる。その前提として、話の起承転結をうまく組み立て、出席者にわかりやすく簡潔に述べられる。

本業のかたわら、執筆の取材でレポーター経験を重ね、人から話を引き出す技術を持つ。今後、退職する団塊世代は街づくりを担う予想が立つが、彼らと年は近いのでフランクに接しやすく、なお、その特性を発揮できる。

最近では地元市の各種委員会で委員を務め、中でも「民活」による公共サービス充実を目指す「市民提案型まちづくり事業補助金」制度運用とかかわったことで、今日的な市民グループの活動実態に触れ、時代感覚がよく分かる。

枠内に記入して下さい。別紙は無効といたします。